

# 木造軸組外壁

# EXBT-Y14

ケイミュー 窯業系サイディング仕様(寒冷地域用)

外装材は、寒冷地域用の窯業系サイディング「セラディール・親水14」、  
「セラディール・親水14 広幅」に限定となります。

30分防火構造 国土交通大臣認定 PC030BE-4111 (2)

## 防火構造の施工仕様書

[令和7年11月版]



## はじめに

この施工仕様書は、表紙に記載してある防火構造認定の条件を満足するための推奨施工方法を示したもので  
す。本書を基に現場毎の施工要領書および施工計画書の作成をお願いいたします。

尚、施主や設計者の指定による特記仕様等で本書に記載が無い場合は、防火構造認定書別添にて認定条件の範  
囲であることを確認の上、施工要領書および施工計画書に反映させてください。

## 適切な施工管理体制にて施工をしていただくために

特定共同住宅の住戸等と住戸等の界壁を乾式耐火壁にて施工する場合は、“特例基準「消防法施行令第29条の  
4」”に基づいた総務省令第40号、その細目を定めた消防予第188号および500号通知の内容を遵守する義  
務があります。その500号通知には乾式耐火壁の施工条件として、「適切な施工管理体制が整備されている場合」  
と明記されております。

「適切な施工管理体制が整備されている場合」とは、

## 1 乾式壁の施工方法

住戸等と住戸等との間の防火区画を形成する壁のうち乾式のもの（以下「乾式壁」という。）の施工方法が、当  
該乾式壁の製造者により作成された施工仕様書等により明確にされており、かつ、その施工実施者に周知されて  
いること。

## 2 施工現場における指導・監督等

乾式壁の施工に係る現場責任者に当該乾式壁の施工に関し十分な技能を有する者（乾式壁の製造者の実施する技  
術研修を修了した者等）が選任されており、かつ、当該現場責任者により施工実施者に対して乾式壁の施工に係  
る現場での指導・監督等が行われていること。

## 3 施工状況の確認等

乾式壁の施工の適正な実施について、自主検査等により確認が行われ、かつ、その結果が保存されていること。

## 4 その他

ア 施工管理体制の整備状況については、当該特定共同住宅等の施工全般に係る責任者の作成する施工管理規程  
等により確認すること。

イ 乾式の壁と床、はり等の躯体との接合部の耐火処理については、特に徹底した施工管理を行うこと。

上記は、施工現場で乾式戸境壁の耐火性能を確保するために施工管理体制を整備することを目的としており  
ます。この考え方戸境壁以外の外壁防火壁を施工する際にもあてはまるところから、適切な施工管理体制の整備  
をお願いします。

目 次

①総 則

- 1-1 適用範囲
- 1-2 施工計画書の作成と周知徹底
- 1-3 施工中の疑義
- 1-4 檢 査

②安全対策

③せっこう一ボードの荷姿、運搬、保管

- 3-1 荷 姿
- 3-2 運 搬
- 3-3 保 管
- 3-4 残材処理、清掃

④材 料

- 4-1 主構成材料
- 4-2 副構成材料

⑤施工要領

- 5-1 標準施工手順
- 5-2 施工要領

⑥検 査

- 6-1 自主検査
- 6-2 立会い検査

⑦認定書

防火構造

⑧水平断面図

## ① 総則

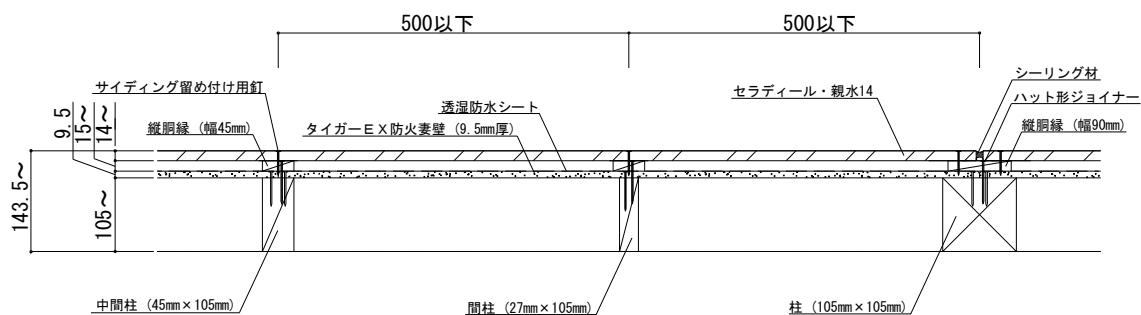
## 1-1 適用範囲

この施工仕様書は、木造軸組外壁 EXBT-Y14 ケイミュー 窯業系サイディング仕様（寒冷地域用）について適用する。

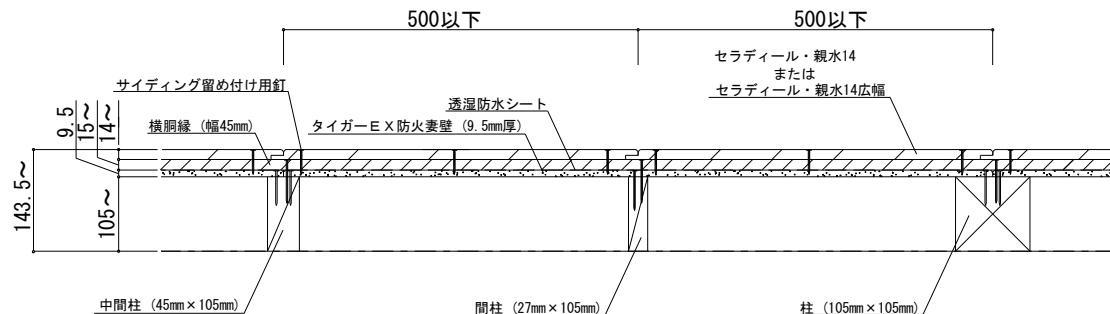
木造軸組外壁 EXBT-Y14 ケイミュー 窯業系サイディング仕様（寒冷地域用）  
30分防火構造 国土交通大臣認定 PC030BE-4111 (2)

水平断面図

## 【サイディング横張り（縦胴縁）仕様】



## 【サイディング縦張り（横胴縁）仕様】



※本書の図面寸法値は、各部材の公称寸法を記載しております。

※外装材は、寒冷地域用の窯業系サイディング「セラディール・親水14」、「セラディール・親水14広幅」に限定となります。

※サイディングは無塗装品（セラディール14、セラディール14広幅）も使用可能です。

※当壁構造は、胴縁の取り付けが必須となります。

※タイガーエX防火妻壁は、耐力面材に該当しません。

※内装材（被覆材）、断熱材および防湿気密シートの記載がない当認定につきまして「令和7年6月30日付国住指第150号、国住参建第1574号に関するQA」の通り、防火構造の外壁の認定であって屋内側についての記載がないものにおいては、加熱面以外の面となる屋内側は、大臣認定仕様への適合の必要がある範囲ではないため、屋内側に内装材（被覆材）や断熱材を設けることは大臣認定不適合とはなりませんが、内装材（被覆材）、断熱材および防湿気密シートを採用する場合は、あらかじめ指定確認検査機関などに必ずご確認ください。

**1-2 施工計画書の作成と周知徹底**

木造軸組外壁 EXBT-Y14 ケイミュー 窯業系サイディング仕様（寒冷地域用）の施工に際しては、この施工仕様書およびケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」を基に現場毎に施工計画書を作成する。事前に説明会、その他の方法で、作業員全員に周知徹底を図る。

**1-3 施工中の疑義**

施工中、施工計画書に明記されていない事項、または疑義が生じた場合は、認定条件を確認の上、設計者・建築元請業者などと施工方法を検討する。

**1-4 検査**

施工業者は、工事が完了した時点で自主検査を実施した後、建築元請業者の監督員に報告し、検査を受ける。

**② 安全対策**

建築元請業者の安全方針に従って対策してください。

**《タイガーボード類の注意》**

\*指定の用途以外にご使用の場合は、十分に性能を発揮できない場合があります。

\*タイガーEX防火妻壁を施工する際の切断作業では集塵などに留意し、防塵カッターや集塵丸鋸を使用してください。また、サンディングなどの作業で発生する粉塵に対しては、防塵マスクや安全メガネを着用してください。

\*在庫の際、積層段数が多いと荷くずれの危険があります。

\*タイガーEX防火妻壁の廃材、洗浄排水の処理については、環境公害とならないようにご注意ください。「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」などの法令に基づき適切に処理してください。

**《サイディングの注意》**

\*切断工具、保護具、保管方法、残材処理等はケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」などに従ってください。

## ③ せっこうボードの荷姿、運搬、保管

## 3-1 荷姿

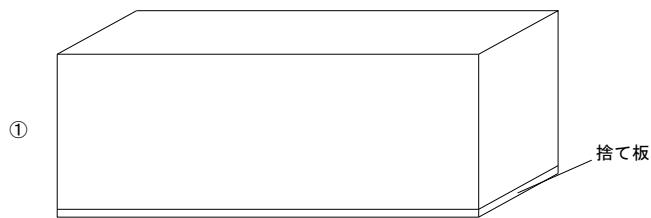
保管荷姿は、通常、タイガーエクス防火妻壁（9.5mm）で100枚を1山としてある。

## 3-2 運搬

タイガーエクス防火妻壁などの搬入は、建築元請業者の監督員との打ち合わせにより、現場の搬入計画に基づいて行う。

## 3-3 保管

- (1) 荷くずれ、角欠けがないように均等に置く。
- (2) 傾斜面、墨出し部には置かない。
- (3) 凸凹面や水漏れ部には置かない。上階から漏水の恐れがある場合や屋外の場合は、あらかじめシートなどでタイガーエクス防火妻壁が濡れないように養生する。
- (4) タイガーエクス防火妻壁の保管は、波打ち、そりがでないように下図のように、高さのそろった台上にボードの縁が台からはみ出ないようにすること。また、各山の一番上のボードは裏面を上面とすること。タイガーエクス防火妻壁を屋外で保管する場合は、必ずパレット積みとすること。



- (5) 2段積みなどを行う場合は、台木の位置を各段でそろえること。

- (6) タイガーエクス防火妻壁を踏み台にしないこと。

## 3-4 残材処理、清掃

タイガーエクス防火妻壁の切断加工などを行った作業場所は清掃する。タイガーエクス防火妻壁、その他の残材は、あらかじめ決められた置き場に集積する。

## ④ 材 料

## 4-1 主構成材料

## 4-1-1 被覆材

## 両面ボード用原紙張せっこう板 (GB-R-H)

商品名：タイガーEX防火妻壁（以下、EX防火妻壁と称する）

(1) 規格 不燃NM-4127、JIS A 6901

(2) 尺法

厚さ 9.5mm

大きさ(標準) 910mm×1,820mm

(3) 性能

比重 1.0±0.1

含水率 3%以下

※EX防火妻壁は、耐力面材に該当しません。

## 4-1-2 外装材

## 化粧窯業系サイディング（以下、サイディングと称する）

商品名：セラディール・親水14（寒冷地域用）

セラディール・親水14広幅（寒冷地域用）

寸法

厚さ 14mm

大きさ 横張り 455mm×3,030mm（セラディール・親水14）

縦張り 455mm×3,030mm（セラディール・親水14）、

910mm×3,030mm（セラディール・親水14広幅）

※外装材は、寒冷地域用の窯業系サイディング「セラディール・親水14」、「セラディール・親水14広幅」に限定となります。

※サイディングが横張りの場合、縦胴縁、縦張りの場合、横胴縁となります。ただし、「セラディール・親水14広幅」を縦張りとする場合、縦胴縁とすることも可能です。

※無塗装品（セラディール14、セラディール14広幅）も使用可能です。

※無塗装品（シーラー品）は、現場での塗装の際、塗布量（有機質固形分量100g/m<sup>2</sup>以下）を厳守してください。

## 4-1-3 柱

JAS規格に適合する構造用集成材または構造用製材など

□-105mm以上×105mm以上

## 4-1-4 中間柱（継手間柱）

JAS規格に適合する構造用集成材または構造用製材など

□-45mm以上×105mm以上

## 4-1-5 間柱

JAS規格に適合する構造用集成材または構造用製材など

□-27mm以上×105mm以上

## 4-2 副構成材料

## 4-2-1 受材（胴つなぎ）（EX防火妻壁に横目地を設ける場合には下記のものを使用する）

JAS規格に適合する構造用製材または下地用製材など

□-27mm以上×27mm以上

※EX防火妻壁に横目地を設ける場合には、防火認定上、受材の取り付けが必須となります。

## 4-2-2 脇縁

JAS規格に適合する構造用製材、造作用製材、下地用製材など

サイディングの一般部 幅45mm以上×厚さ15mm以上

サイディングの縦目地部（横張りの場合） 幅90mm以上×厚さ15mm以上

サイディングの横目地部（縦張りの場合） 幅90mm以上×厚さ15mm以上

※樹種がベイツガまたはアカマツの場合は、厚さ15mm以上、スギまたはエゾマツの場合は、厚さ18mm以上となります。

※当壁構造は、脇縁の取り付けが必須となります。

※サイディングが横張りの場合、縦脇縁、縦張りの場合、横脇縁となります。但し、「セラディール・親水14 広幅」を縦張りとする場合、縦脇縁とすることも可能です。

※脇縁の留め付け方法は、ケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」に従ってください。

## 4-2-3 透湿防水シート

JIS A 6111に規定する「透湿防水シート」厚さ0.6mm以下のもの。

## 4-2-4 釘・タッピンねじ・ステークなど

(1) EX防火妻壁の留め付け用釘：鋼製またはステンレス製

φ1.7mm以上×32mm以上

※EX防火妻壁は耐力面材に該当しません。

(2) 脇縁の留め付け用タッピンねじ

φ3.8mm以上×50mm以上

(3) 脇縁の留め付け用釘

φ2.7mm以上×50mm以上

※ケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」では、脇縁の留め付け間隔は、N50釘を使用する場合は300mm以下、その他記載の釘を使用する場合は500mm以下となっております。使用する釘の種類により留め付け間隔が異なりますので、脇縁の留め付け方法は、ケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」に従ってください。

(4) サイディング留め付け用釘（ステンレスリング釘）

φ2.3mm以上×40mm以上

（各色のサイディング用釘）

※サイディングの留め付け材の選定は、ケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」に従ってください。

(5) 受材留め付け用釘

2-N90（小口打ちの場合）

2-N75（斜め打ちの場合）

(6) 透湿防水シートの留め付け用ステーク

幅10mm以上×長さ6mm

（透湿防水シートの留め付け用にはブチルゴムテープ、アクリルテープまたはスプレーのりも使用可能）

(7) スターターの留め付け用タッピンねじ

φ2.1mm以上×25mm以上

(8) スターターの留め付け釘

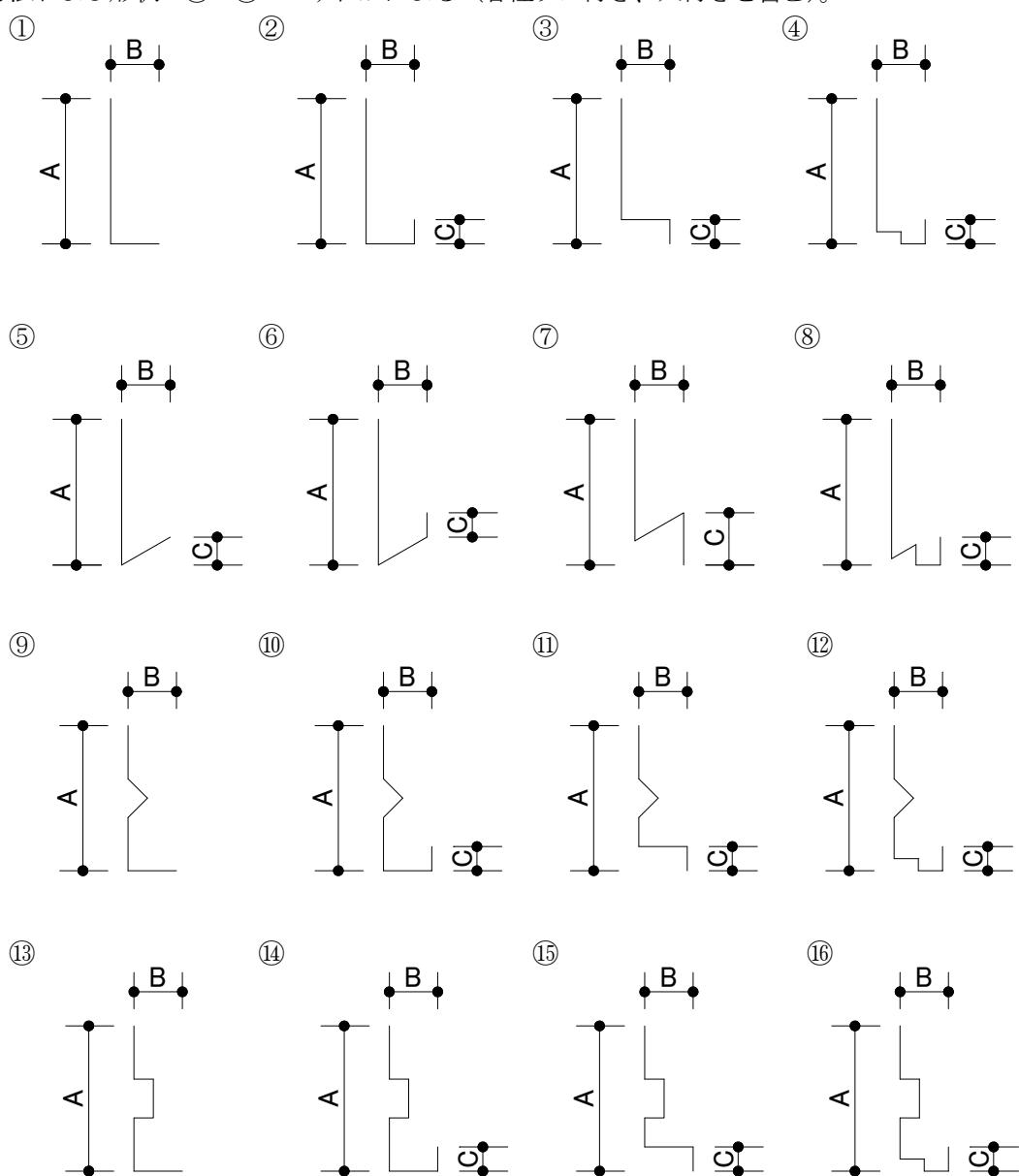
φ1.7mm以上×25mm以上

## 4-2-5 スターター（サイディングを縦張りとする場合には必要に応じて下記のものを使用する）

寸法および形状

厚さ 0.4mm以上

寸法および形状 ①～⑯のいずれかによる（各種リブ付き、穴付きを含む）。



A: 30mm以上、B: 5mm以上、C: 1mm以上

## 4-2-6 ハット形ジョイナー

JIS G 3322またはJIS G 3323などに規定する「めっき鋼板」厚さ0.2mm以上のもの。

## 4-2-7 スプレーのり

透湿防水シートの留め付け用スプレーのり

スチレンブタジエンゴム系接着材など

（透湿防水シートの留め付け用にはステープルも使用可能）

## 4-2-8 サイディング左右接合部の処理材

- (1) シーリング材  
変成シリコーン系など
- (2) プライマー  
専用プライマーなど

## ⑤ 施工要領

## 5-1 標準施工手順

## 5-1-1 屋外側



※ 下地組は、当防火認定の仕様に従ってください。

※1 ケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」に従ってください。

## 5-2 施工要領

## 5-2-1 EX防火妻壁の張り付け

- (1) EX防火妻壁は、縦張りまたは横張りとする。
- (2) EX防火妻壁は、柱、間柱、中間柱などに釘で200mm以下の間隔で留め付ける。EX防火妻壁に横目地を設ける場合には、受材（胴つなぎ）に水平方向200mm以下の間隔で留め付ける。

※EX防火妻壁は、仮留めの状態で放置せず、必ず所定の釘打ちを完了させてください。

※EX防火妻壁の釘での留め付けは、木下地（柱、間柱、中間柱など）を外さず、釘打ちしてください。木下地（柱、間柱、中間柱など）を外した場合、釘が貫通し反対側に飛び出す恐れがあります。必ず反対側に人がいないことを確認の上、施工してください。

## 5-2-2 透湿防水シートの張り付け

- (1) 透湿防水シートは、横張りとし、下から上へ張る。
- (2) 透湿防水シートは、連続させてすき間が生じないように調整しながら、EX防火妻壁にステープルで留め付ける。ステープルの間隔は、縦方向では300mm以下、横方向では455mm以下、その他の部位は、たるみ、シワとならないように3,000mm以下で留め付ける。

- (3) 透湿防水シートの継目部の重ね代は、縦方向では90～500mm、横方向では150mm～500mmとする。横方向の重ね代は、EX防火妻壁の目地と重ならないように横方向にステープル2本で留め付ける。

※ステープルは長さ6mmを用い、留め付けはハンマータッカーを用いてください。

### 5-2-3 脊縁の取り付け

- (1) 脊縁は、サイディングが横張りの場合、縦脊縁とし、サイディングが縦張りの場合、横脊縁または縦脊縁とする。サイディングの一般部は幅45mm以上、サイディングが横張りの場合の左右接合部、サイディングが縦張りの場合の上下接合部は幅90mm以上を用いる。

- (2) 脊縁は、取り付け間隔を500mm以下とし、柱、間柱、中間柱の位置に釘などで500mm以下の間隔で留め付ける。

※ケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」では、脊縁の留め付け間隔は、N50釘を使用する場合は300mm以下、その他記載の釘を使用する場合は500mm以下となっております。使用する釘の種類により留め付け間隔が異なりますので、脊縁の留め付け方法は、ケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」に従ってください。

### 5-2-4 サイディングの取り付け

- (1) サイディングが縦張りの場合、必要に応じて、スターターを脊差または脊縁などにタッピンねじなどで1,500mm以下の間隔で留め付ける。

- (2) サイディングは、サイディング留め付け用釘を用いて留め付ける。縦脊縁の場合、水平方向500mm以下、鉛直方向203mm以下の間隔で脊縁に留め付ける。横脊縁の場合、水平方向203mm以下、鉛直方向500mm以下の間隔で脊縁に留め付ける。

- (3) ケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」に従って取り付ける。

### 5-2-5 サイディング接合部などの処理

ケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」に従って処理する。

## 5-2-6 その他設計、施工上の留意点

- (1) この「施工仕様書」は、認定書の中から推奨する材料を明記しております。この「施工仕様書」に明記していない認定範囲の材料を用いる場合、認定番号PC030BE-4111(2)の認定書に記載してある材料に限定されます。
- (2) 壁高および壁幅については、構造計算などにより構造安全性が確かめられた寸法としてください。
- (3) この「施工仕様書」では、施工部位は妻壁（三角形部分）を対象としています。
- (4) EX防火妻壁は耐力面材に該当しません。留め付けピッチ、その他条件は、認定番号PC030BE-4111(2)の認定書に従ってください。
- (5) 当防火認定上、EX防火妻壁に横目地を設ける場合には、EX防火妻壁の横目地となる位置への屋外側受材（胴つなぎ）の取り付けは必須となります。
- (6) EX防火妻壁は、仮留めの状態で放置せず、必ず所定の釘打ちを完了させてください。
- (7) EX防火妻壁の施工後は、速やかに透湿防水シートを施工してください。
- (8) 雨天時の屋外側の施工は、避けてください。
- (9) 雨天後の屋外側の施工は、事前に施工完了箇所が十分に乾燥していることを確認してから行ってください。
- (10) 当壁構造に開口部を設置する際は、建築地域の条件に従ってください。
- (11) 当防火認定では、ケイミュー（株）の以下の14mm厚窯業系サイディングが使用可能です。  
寒冷地域用：セラディール・親水14、セラディール・親水14広幅  
※無塗装品（セラディール14、セラディール14広幅）も使用可能です。  
※無塗装品（シーラー品）は現場での塗装の際、塗布量（有機質固形分量100g/m<sup>2</sup>以下）を厳守してください。
- (12) 当防火認定では、サイディングは横張り、縦張りが可能です。
- (13) 当壁構造は、胴縁の取り付けが必須となります。
- (14) 防蟻および防腐処理された胴縁を用いる場合は、施工中に雨水にさらされないよう、速やかにサイディングを施工するか養生をしてください。
- (15) 内装材（被覆材）、断熱材および防湿気密シートの記載がない当防火認定につきまして「令和7年6月30日付国住指第150号、国住参建第1574号に関するQA」の通り、防火構造の外壁の認定であつて屋内側についての記載がないものにおいては、加熱面以外の面となる屋内側は、大臣認定仕様への適合の必要がある範囲ではないため、屋内側に内装材（被覆材）や断熱材を設けることは大臣認定不適合とはなりませんが、内装材（被覆材）、断熱材および防湿気密シートを採用する場合は、あらかじめ指定確認検査機関などに必ずご確認ください。
- (16) 当壁構造での曲面壁の設計・施工はできません。

## ⑥ 検査

## 6-1 自主検査

工程	項目	要点	方法	基準	管理方式	
下地の組み立て	柱 中間柱 間柱	間隔	スケールなど	柱と間柱の間隔 500mm以下 中間柱と間柱の間隔 500mm以下 中間柱と柱の間隔または間柱を介する場合、中間柱相互の間隔 1,000mm以下		
EX防火妻壁の張り付け	目地 釘	すき間	目視	すき間がないこと		
		胴部径	箱の表示など	1.7mm以上		
		長さ	スケールなど	32mm以上		
		間隔	スケールなど	200mm以下		
透湿防水シートの張り付け	透湿防水シート	厚さ	スケールなど	0.6mm以下		
	継目 ステープル	重ね代	スケールなど	縦方向 90~500mm 横方向 150~500mm		
		サイズ 間隔	スケールなど	幅 10mm以上、長さ 6mm 縦方向 300mm以下 横方向 455mm以下		
	状態	シワ・たるみ	目視	シワ・たるみがないこと		
	胴縁の取り付け	厚さ	スケールなど	15mm以上		
		幅	スケールなど	サイディング一般部 45mm以上 サイディング幅方向接合部 90mm以上	チェック検査	
		胴部径	箱の表示など	3.8mm以上		
		長さ	スケールなど	50mm以上		
		間隔	スケールなど	500mm以下		
		釘	胴部径 長さ 間隔	2.7mm以上 50mm以上 500mm以下		
サイディングの張り付け	左右接合部（横張り） 釘	目透かし	スケールなど	10mm以下		
		胴部径	箱の表示など	2.3mm以上		
		長さ	スケールなど	40mm以上		
		間隔	スケールなど	(縦胴縁の場合) 水平方向 500mm以下 鉛直方向 203mm以下 (横胴縁の場合) 水平方向 203mm以下 鉛直方向 500mm以下		
サイディング接合部の処理	ハット形 ジョイナー	厚さ	スケールなど	0.2mm以上		
		左右接合部 (横張り)	目視	使用していること		
	シーリング材	充てん	目視	すき間がないこと		
		充てん	スケールなど	左右接合部（横張り） 充てん高さ 6mm以上		

注) : 上記表は防火構造の認定条件を満たす検査項目となります。施工監理上、必要な検査項目は別途、現場ごとにご検討ください。

## 6-2 立会い検査

立会い検査は、建築元請業者の監督員の指示に基づいて行う。

木造軸組外壁 EXBT-Y14

ケイミュー 窯業系サイディング仕様（寒冷地域用）

施工仕様書

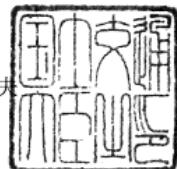
B-091-13

## 認定書

国住参建第 4544 号  
令和 5 年 3 月 16 日

吉野石膏 株式会社  
代表取締役 須藤 永作 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第八号並びに同法施行令第 108 条第一号及び第二号（外壁（耐力壁）：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号  
PC030BE-4111(2)
2. 認定をした構造方法等の名称  
塗装パルプ混入セメントけい酸カルシウム化合物板・両面ボード用原紙張せ  
っこう板表張／木製軸組造外壁
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

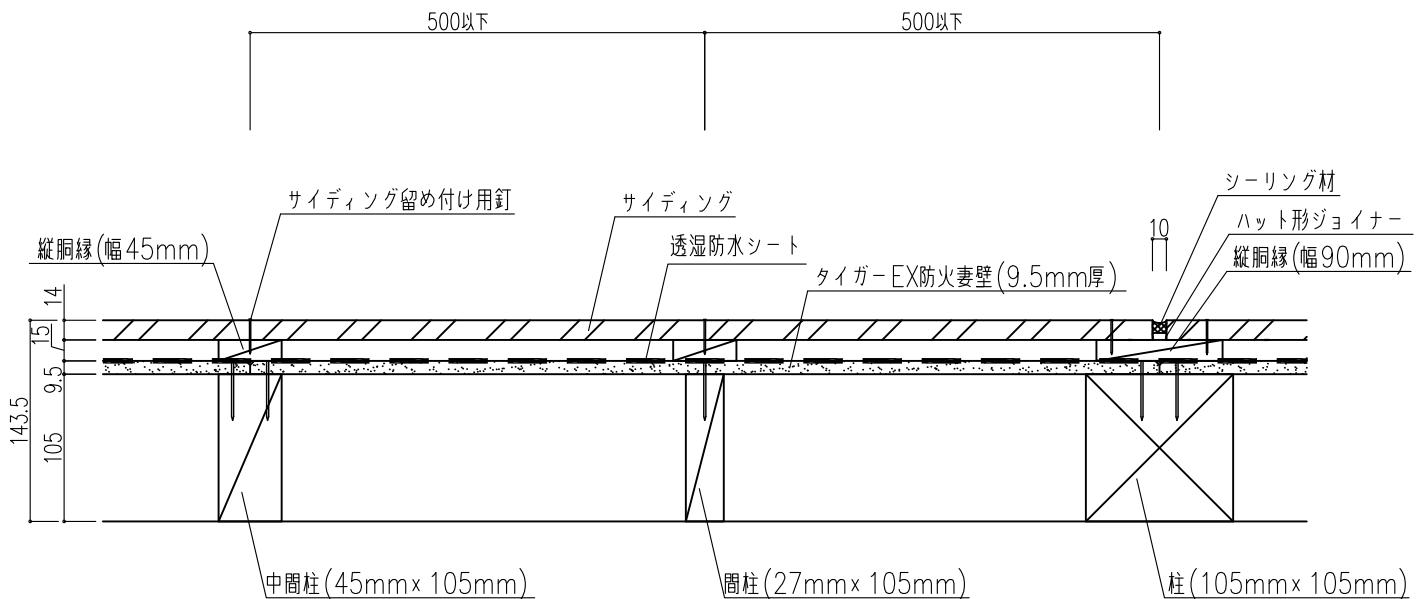
（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

認定書＜防火構造＞

[令和 7 年 11 月版]

## 水平断面図

### 屋外側



### 屋内側

※当壁構造は、胴縁の取り付けが必須となります。

※胴縁、サイディングの施工はケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」に従ってください。

※内装材（被覆材）、断熱材および防湿気密シートの記載がない当認定につきまして  
「令和7年6月30日付国住指第150号、国住参建第1574号に関するQA」  
の通り、防火構造の外壁の認定であって屋内側についての記載がないものにおいて  
加熱面以外の面となる屋内側は、大臣認定仕様への適合の必要がある範囲ではない  
ため、屋内側に内装材（被覆材）や断熱材を設けることは大臣認定不適合とはなり  
ませんが、内装材（被覆材）、断熱材および防湿気密シートを採用する場合は、あ  
らかじめ指定確認検査機関などに必ずご確認ください。

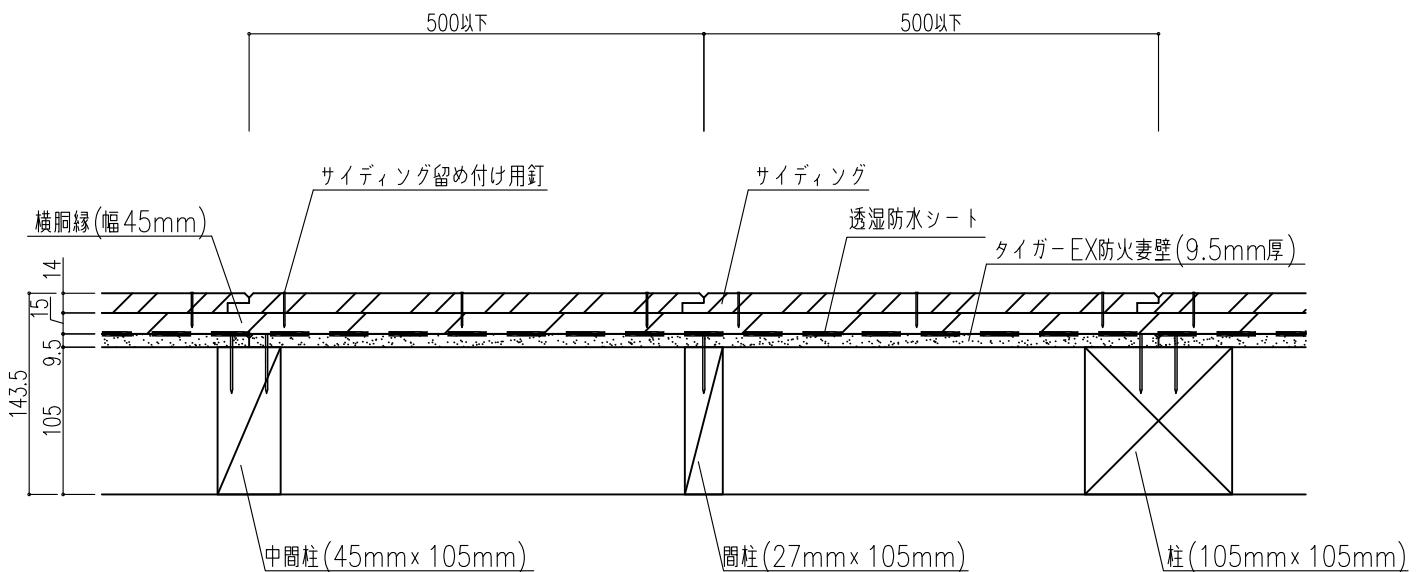
図面名

水平断面図（サイディング横張り仕様）

[令和7年11月版]

## 水平断面図

### 屋外側



### 屋内側

※当壁構造は、胴縁の取り付けが必須となります。

※胴縁、サイディングの施工はケイミュー（株）の「外壁材設計施工マニュアル」に従ってください。

※内装材（被覆材）、断熱材および防湿気密シートの記載がない当認定につきまして  
「令和7年6月30日付国住指第150号、国住参建第1574号に関するQA」  
の通り、防火構造の外壁の認定であって屋内側についての記載がないものにおいて  
加熱面以外の面となる屋内側は、大臣認定仕様への適合の必要がある範囲ではない  
ため、屋内側に内装材（被覆材）や断熱材を設けることは大臣認定不適合とはなり  
ませんが、内装材（被覆材）、断熱材および防湿気密シートを採用する場合は、あ  
らかじめ指定確認検査機関などに必ずご確認ください。

図面名

水平断面図（サイディング縦張り仕様）

[令和7年11月版]